

## ヘブル人への手紙6章18-19節 「希望の錨」

### 1A 押し流す圧力

1B すばらしい体験

2B 信仰の告白

### 2A 約束と誓い

1B アブラハムへの約束

2B 偽ることのできない神

### 3A たましいの錨

1B 安全で確か

2B 幕の内側

## 本文

ヘブル人への手紙 6 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、5 章まで来ていました。午後に、6 章を一節ずつ見ていきますが、今朝は、18-19 節に注目します。「<sup>18</sup> それは、前に置かれている希望を捕らえようとして逃れて来た私たちが、約束と誓いという変わらない二つのものによって、力強い励ましを受けるためです。その二つについて、神が偽ることはあり得ません。<sup>19</sup> 私たちが持っているこの希望は、安全で確かな、たましいの錨のようなものであり、また幕の内側にまで入って行くものです。」今朝のメッセージの題名は、「希望の錨」です。

### 1A 押し流す圧力

私たちは、すでに自分たちの信仰について、押し流されて、いつの間にか、神の救いをないがしろにする危険について学びました。「2:1 こういうわけで、私たちは聞いたことを、ますますしっかりと心に留め、押し流されないようにしなければなりません。」覚えていますか、海水浴をしている時に、いつの間にか沖に押し流されてしまう、離岸流の話を導入でその時にしました。世における流れが、非常に強く、私たちは到底抗うことができないようなものに見える時に、では、どうすれば、押し流されることがなくて済むのか？という課題があります。

その課題に対する答えが、「錨」です。船が安全に、確かに停泊できるようにするために、錨を降ろします。調べますと、実に紀元前二千年頃から、つまりアブラハムがいた時の錨が発見されているそうです。今に至るまで、錨は船が海流で押し流されないように、留まっていられるようにしているものです。私たちは、信仰において、揺るがされることなく、堅くとどまっていましようという勤めを、何度となく聞いてきたと思います。ヘブル人への手紙においても、何度となく、著者は、堅く保っているように教えています。

けれども、どのようにして、大きな圧力に流されないで、堅く保っていくことができるのでしょうか？自分の力では、どうすることもできません。そうではなく、自分が、魂の深いところにある希望という錨が自分を引き留めることを教えているのです。

### 1B すばらしい体験

この手紙を受け取っているユダヤ人の信者たちの多くが、すばらしい主のみわざを味わっていました。6章3-4節を見ると、驚くべき体験をしています。「一度光に照らされ、天からの賜物を味わい、聖霊にあずかる者となって、神のすばらしいみことばと、来たるべき世の力を味わったうえで、」使徒の働きにもあるような、目覚ましい聖霊のみわざにあずかっています。私たちは、そのような強烈な体験が欲しいと願いますし、このような体験があれば、さすがに信仰から離れることはないと思うかもしれませんが、それでも、信仰から離れていった人たち、離れようとしていた人たちがいたのです。

その典型が、十二弟子の一人、イスカリオテのユダでしょう。彼こそは、イエス様が行われた、あらゆる奇跡を、その近くで見っていました。彼自身も、主の御名によって悪霊も追い出したことでしょう。五千人の給食の奇跡も見っていました。それから、主のみことばをずっと聞いていました。他の十一人の弟子たちと同じように、彼は、ここに書かれている、驚くべき恵みにあずかっていたのです。けれども、彼は主を裏切りました。裏切っただけでなく、後悔して、自殺しました。驚くべき神のみわざによってしても、必ずしも私たちの信仰が堅く保たれているわけではないのです。

### 2B 信仰の告白

そして、過去に信仰告白をしたからから、最後までその信仰を保っているかということ、そうではありません。4章14節に、「信仰の告白を堅く保とうではありませんか。」とっています。私がとても気になるのは、キリスト者たちの一部に、とにかく、伝道している相手に、イエスが主であると口で告白させればよいと思っている節があります。しかし、その信仰に見合う行ないの実が結ばれていなければ、その告白は空しいものです。救われるために、イエスが主と告白しますが、イエスを主と口で言ったから、それで救いが保障されているわけではないのです。

イエス様が、警告された通りです。「マタ 7:21-23 わたしに向かって『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです。その日には多くの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言し、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの奇跡を行ったではありませんか。』しかし、わたしはそのとき、彼らにはっきりと言います。『わたしはおまえたちを全く知らない。不法を行う者たち、わたしから離れて行け。』」主よ、主よ、と言っている、主のみこころを行わず、不法を行っているのであれば、そもそも、主を知らなかったということになります。

今、この時代は、とても困難な時代です。信じていると思っていた人たちが、その信じているところから離れていく時代です。パウロの時代も困難であり、テモテにこのように語りました。「Ⅱテモ 4:3-4 というのは、人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好みにしたがって自分たちのために教師を寄せ集め、真理から耳を背け、作り話にそれて行くような時代になるからです。」真理のことばではなく、耳に心地の良いことを聞きたがって、そのようなことを話していく人々が、教会の中からも出てくるということです。

それから、自分たちにこそ知識があり、だから神に近づいていると主張する者たちも出てきます。ヨハネが第一の手紙に、そのような者たちのことを、彼はこのように言っています。「Ⅰヨハ 2:19 彼らは私たちの中から出て行きましたが、もともと私たちの仲間ではなかったのです。もし仲間であつたなら、私たちのもとに、とどまっていたでしょう。しかし、出て行ったのは、彼らがみな私たちの仲間ではなかったことが明らかにされるためだったのです。」教会の中にいた者たちです。けれども、出ていきました。ヨハネは、仲間だったのが離れていったのではなく、元々、仲間ではなかったのが明らかにされるためだったと言っています。

このように、終わりの時に近づくとつれて、私たちの心にあるものが、明らかにされていきます。主が戻られるにあたって、このように言われています。「黙 22:11 不正を行う者には、ますます不正を行わせ、汚れた者は、ますます汚れた者とならせなさい。正しい者には、ますます正しいことを行わせ、聖なる者は、ますます聖なる者とならせなさい。」不正を行っている者が、これまでは隠れていたけれども、その不正が明らかにされていきます。正しい者は、これまでは人目に触れていなかったけれども、ますます明らかにされます。聖なる者も同じです。

## 2A 約束と誓い

ですから、私たちは、心にあることが試される時代に生きていますが、はたして、本当に信仰を持っているのかどうか、押し流されずにとどまっていられるのかどうかは、キリストご自身に対する希望にかかっているのです。この方に望みをかけていることは、どんな大きな世の流れがあろうとも、それが錨となって、押し流されずに安全でいられるということです。

### 1B アブラハムへの約束

そこで大事なものは、約束です。18 節に、「前に置かれている希望を捕らえようとして逃れて来た私たちが、約束と誓いという変わらない二つのものによって、力強い励ましを受けるためです。」とありますね。

ここの約束と誓いというのは、アブラハムに対するものです。アブラハムが、まだカルデアのウルの町にいる時に、神がご自身の示す地に行きなさいと命じられました。カナンの地に入り、祭壇を築いた時に、「あなたの子孫に、この地を与える」と言われました。彼は長いこと、子と与えられま

せんでした。それでも信じ続けました。そして、彼が百歳の時、妻サラが九十歳の時に、男の子を生みました。イサクです。しかし、彼が成長した後に、なんと主は、あなたの愛する独り子を、全焼のいけにえとして献げなさいと命じられるのです。アブラハムは、黙々と準備をして、モリヤ山にイサクと共に行きました。そして、イサクを祭壇の上で縛り付け、刃物を取って、彼を屠ろうとしました。その時に、主の使いが止めに入ったのです。

そして、主の使い、主ご自身がこう言われたのです。「創 22:16-18 わたしは自分にかけて誓う——【主】のことは——。あなたがこれを行い、自分の子、自分のひとり子を惜しまなかったので、確かにわたしは、あなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように大いに増やす。あなたの子孫は敵の門を勝ち取る。あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。あなたが、わたしの声に聞き従ったからである。」ここで、主が、「自分にかけて誓う」と言われたのが、「約束と誓いという変わらない二つのもの」であります。

アブラハムは、忍耐して信じました。到底、その約束がかなえられるようには全く見えない時にも、信じました。そして、その約束が全くなわなくなると思えるようなことが起こっても、それでも信じました。実はヘブル書 11 章を見れば、アブラハムがイサクを献げようとしたときに、自分はイサクを取り戻せる、つまり、自分が屠って彼が死んでも、主が生き返らせてくださると信じていたのです。主は、必ずご自分の約束をその通りにするのだと信じました。主は、確かにご自分の言われるとおりにすると、誓いまでして約束を確かなものにされました。

その誓いは、確かにそのとおりになっています。イスラエルの民は、祝福されました。子孫は数多くなりました。エジプトから救い出され、約束の地に入りました。ヨシュア率いるイスラエルの民は、そこにいるカナン人などを追い払いました。21 章 45 節には、このように書かれています。「【主】がイスラエルの家に告げられた良いことは、一つもたがわず、すべて実現した。」アブラハムの時からすでに五百年を経ています。

そして、アブラハムへの言葉は、敵の門を打ち破って、子孫によって、すべての国々が祝福を受けるというものです。その子孫に、キリストが現れました。この方が敵である、悪魔を打ち滅ぼして、この方であって、ユダヤ人たちだけでなく、異邦人のすべてに祝福が与えられています。私たちが、そのことの証人です。アブラハムの時からすでに、四千年は経っています。主の約束と誓いは、これほどまでに変わらないのです。アブラハム自身は、この約束と誓いを生きているうちに見ることはありませんでしたが、はるか将来に実現しているのです。

この希望にあって、私たちは力強い励ましを受けないといけません。私たちには、キリストが与えられています。この方が罪のために死なれ、よみがえり、天において神の右の座に着かれました。そして、間もなく戻ってこられるのです。そうだとすると、私たちの生活では、試練があり、困難があ

ります。けれども、どんなことをしても、この方に希望を抱くのです。この方の約束と誓いは、決して変わることがないからです。

## 2B 偽ることのできない神

神には、できないことがあります。「**その二つについて、神が偽ることはあり得ません。**」神は、全能の方です。何でもすることはできますが、ご自分の性質に反したことは、することができません。神が偽りことなど、あり得ないことです。テトスに対して、パウロがこう言っていました。「1:2 それは、偽ることのない神が永遠の昔から約束してくださった、永遠のいのちの望みに基づくものです。」ですから、私たちの目で認めることができずとも、逆に反対のことが起こっているように見えても、この方は偽ることができないのですから、その約束は必ず実現します。それを信じます。

## 3A たましいの錨

そこで 19 節、「**私たちが持っているこの希望は、安全で確かな、たましいの錨のようなものであり、また幕の内側にまで入って行くものです。**」と言っています。

### 1B 安全で確か

一つは、「**安全**」です。押し流されることがなく、救いをないがしろにすることがなく、安全だということ。私たちは、日々、怒涛のごとく、情報の波が押し寄せてきます。また、いろいろな出来事が生活の中に起こります。しかし、キリストの御名で、共に集まる時に、それは、キリストにある希望のところに逃れているのです。「**前に置かれている希望を捕らえようとして逃れて来た私たち**」とありますね。そうすれば、私たちが、ことさらに何をすればよいか、思い煩わなくとも、キリストに対する希望に支えられているので、その中でどんな行動を取ればよいか、分かるのです。

そしてもう一つは、「**確か**」です。不確定なことはない、ということです。どうなるかわからないのではなく、必ずこうなると確かなところに留まっていることができます。錨があれば、嵐が来ても、船は決して押し流されることはない、その錨が確かだからと言えますが、同じように希望を持っていれば、たましいが確かなところに留まっていることができます。

私たちはとかく、目に見えるところに注目します。しかし、目に見えないところ、海の底に置かれている錨こそが、私たちにとって大切なものです。キリストに対する希望、その約束に心を留めることは、今の、自分の目の前の課題に、一見、そのまま答えてくれるものではないでしょう。しかし、理解できなくとも、それでも主を思い続ける時に、それが私たちに正しく導くのです。

### 2B 幕の内側

そして、「**また幕の内側にまで入って行くものです。**」と言っています。これは、幕屋の中の聖所のことです。祭司たちが中に入って、そこで主のご臨在と栄光を見ます。聖所の中には、さらに至

聖所があり、垂れ幕で仕切られています。しかし、その中にさえ、キリストの肉体を通して入ることができるのです。その、主のご臨在の、最も深みのところまで、私たちは恵みによって導かれます。

ですから、どれほど、希望を抱いていることが大事かが分かったかと思います。10章23節を読みます、「10:23 約束してくださった方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白し続けようではありませんか。」